

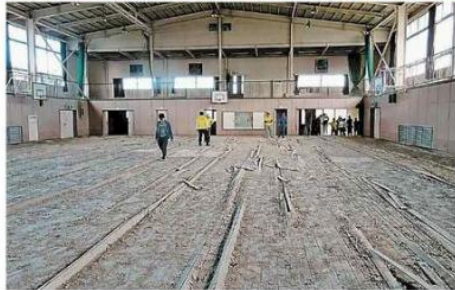
# 日之出住民、被災の箭田(岡山・真備)に 寄せ書き届け復興願う

福井市日之出地区の住民がこのほど、西日本豪雨で大規模な浸水被害に見舞われた岡山県倉敷市真備町地区にある箭田地区を訪れ、義援金や復興を願う寄せ書きを贈った。日之出と箭田は14年前から交流を続けており、被害の大きさを目の当たりにしたひのでまちづくり協議会の山田年克会長(55)は、「どんな形になるかわからないが、今後も支援や交流を続けたい」と思いを強くしている。(大久保直輝)



日之出地区住民が届け寄せ書きや千羽鶴。20日、岡山県倉敷市の真備公民館箭田分館(ひのでまち協提供)

## 義援金、児童合唱CDも 「支援や交流 続けたい」



西日本豪雨で被災した箭田小体育館。現在は別の小学校敷地に建設されたプレハブ校舎で授業を行っている。20日、岡山県倉敷市(ひのでまち協提供)

2004年に福井市で開かれた「まちづくり全国交流大会」の参加をきっかけに親交を深めた。ひのでまち協と箭田地区まちづくり推進協議会が主体となり、住民や子どもたちが年度ごとに交互に訪問。今夏も日之出の住民が箭田の祭りに参加する予定だったが、豪雨で中止になった。

豪雨の被害で、真備町地区では箭田などで川の堤防が決壊。広範囲に浸水し、全家の約半数に当たる4600戸余りが全壊状態となった。犠牲者は51人上り、3カ月以上が経過した現在も多くの人が仮設住宅や避難所で生活している。

山田会長や日之出小の

吉田和美校長(58)ら5人は10月20日、真備公民館箭田分館を訪れ、日之出の住民から寄せられた義援金などを箭田推進協と箭田小に贈った。「頑張りなさい」と激励の言葉を贈った。また「また会おう」と寄せ書きした横断幕、日之出小児童が応援歌を合唱して収録したCD、千羽鶴も届けた。

箭田分館には推進協のメンバーや日之出に遊びに来たことのある箭田小児童ら約30人が集まり、山田会長は「よく育館の床がはがれ、教室の天井に黒カビが生えた。箭田小の校舎も視察した。同校児童は現在、別の小学校敷地に建てられたプレハブ校舎にバス通学しており、日之出小の吉田校長は「登下校に不便を強いられ、被災時の不安を抱えている子どももいると聞いた。日之出の児童に現地の様子を伝え、引き続き応援していきたい」と話していた。